

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所・小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	悠ライフさくら山鼻2F	評価実施年月日	平成21年10月1日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名		記録年月日	平成21年10月10日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>理念の中で「その方らしい至福の時間を大切にすることが組み込まれている。</p>		
<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>理念を全体会議や毎日の申し送りで必ず唱和し、全体として共有できるようにしている。 また事業目標や職場の教養も必ず唱和し、職員の意識を高めている。</p>		
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>・各階の入り口に理念が掲げられており、また、地域運営推進会議にご家族様、町内会、民生委員、保育所、地域包括支援センターの皆さんに参加していただき、理解してもらえるよう取り組んでいる。 ・家族会を発足して、取り組んでいる。</p>	○	<p>今後も家族や地域の方々に更に理解して頂けるよう地域運営推進会議や行事を通じて取り組んでいく。</p>
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>・町内会で行っているゴミの清掃等に参加している。 ・地域の方に、ホームの消防訓練に参加していただいている。 ・職員は隣近所の方々と気軽に挨拶を交わし、良いお付き合いができるよう努めている。</p>	○	<p>職員が町内会の行事に参加したりすることにより、隣近所の方々がもっと気軽に立ち寄ってもらえるような雰囲気作りに努める。</p>
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>・ホームの3周年記念行事に、児童、地域の皆さんを招待し、出席していただいている。 ・ホームの行事では、近所の駐車場をお借りしている。 ・町内会で行っているゴミの清掃等に参加している。</p>	○	<p>学校の行事や老人会への参加等声がけ、お誘いをしていく。</p>
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>・地域の皆さんにホームの見学を自由に行っていただいている。</p>	○	<p>・今後は地域の高齢者等の暮らしに役立つことはないか職員全員で会議において話し合いをしていく。 ・今後は地域の皆さんが参加していただけるキャラバンメイトなどの研修会を検討する。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	職員は評価の意義を理解しており、前回の評価を活かし改善に取り組んでいる。	○	今後はできているところなども工夫を図りより良いケアに結びつけたい。
8 ○運営推進介護を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	・運営推進会議においてサービスの状況を報告し、皆さんからの意見もいただきサービス向上に活かしている。 ・地域推進会議の委員の推薦により地域の方に、職員の学習会に講師として来ていただいた。 ・地域推進会議を行い、地域の皆さんの協力を得られている。	○	今後も地域推進会議においてご近所の方に講師をしていただき職員の勉強会をしていく。
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	現状、市町村の職員は運営推進会議に参加依頼もしておらず、現状としては手続きや相談などで市町村と連携を図っている。	○	市町村との連携する機会を設ける等して、質の向上に取り組んでいく。
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	個人研修などには参加し、必要な方にはそれらを活用できるよう支援している。	○	研修で学んだことを全体として話し合える機会を作り全員で共有できるようにしていく。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	・勉強会等で学ぶ機会を持ち、虐待を見逃すことがないよう職員は注意を払っている。 ・ヒヤリハット、事故報告書についても虐待があるか職員同士が常に確認しあっている。 ・職員相互のケアの内容についても振り返りを行っている。	○	今後も全体会議等で学び、全員で虐待の防止に努める。
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には、環境による認知症の影響をできる限り最小限になるよう、ご家族様に十分な説明を行い理解、納得を図っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	・相談窓口は設置しており、日常の中でコミュニケーションをとり意見や不満等を聞きそれらを運営に反映させている。 ・苦情があった場合にはすみやかに苦情報告書に記載し解決に努めている。 ・苦情処理の申出方法を契約書に盛り込み理解していただいている。	○	ご意見ボックスを玄関に置き、さらに意見をいただける環境を作っていく。
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月一人ひとりの生活状況、金銭出納帳を担当職員からご家族様に報告させていただいている。又、ご家族様が来訪する都度近況を報告している。また、健康状態の変化があったときにはその都度報告をしている。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	毎月生活状況を報告する際、返信用の封筒を同封させていただき、意見、不満、苦情等をいただけるようにしている。また、家族会を発足し、意見交換ができる機会を設けている。	○	いただいた意見については全体会議やユニット会議で話し合いのうえ改善を行い、日常のケアに活かしている。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	全体会議等を実施し、意見や提案を聞ける機会を設けている。又、必要な時には個人とも面談を行っている。	○	全職員がもっと意見や提案を出せるような全体会議のあり方を検討していく。日常のやり取りの中で職員の意見を聞くようにする。
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	状況に応じて出来る範囲内で勤務の調整を行っている。	○	人員に余裕を持たせ勤務調整がいつでも柔軟に行えるよう体制を整えていく。
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	運営者は異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、職員は利用者へのダメージを防ぐ配慮に努めている。	○	定期的な面談を通して在職者の不安や悩みを把握するよう努めている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>外部での研修は、その機会を確保できるように勤務の調整を行っている。また研修の情報を各職員の閲覧しやすい場所に掲示し参加の呼びかけも行っている。</p>	○	<p>全体会議の場で研修報告をし全員のものとしていく。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>中央区認知症高齢者連絡会に参加し、同業者との交流を通じサービスの質の向上に努めている。</p>	○	<p>地域の同業者と交流する機会には積極的に参加しネットワーク作りを行っていく。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>職員は、1ヶ月の勤務のうち、希望の定休日を指定することができ、またストレス軽減のための有給休暇を取ることができる。しかし、十分とはいえない。</p>	○	<p>就業規則を改正し、法人全体で有給取得に向けた取り組みを行っていく。</p>
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>運営者は、個々の努力や実績、勤務状況を把握したうえで、個別に声掛けして各自が向上心を持って働けるよう努めている。</p>	○	<p>今後はもっと管理者と管理者や職員が話し合える機会を設けていく。</p>
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入所前に2～3回ご本人様と面談を行い、困っていること、不安なこと、求めていること等を伺い、ご本人様の思いを受け止めるよう努めている。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入所前に2～3回ご本人様と面談を行い、困っていること、不安なこと、求めていること等を伺い、ご本人様の思いを受け止めるよう努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人様及びご家族様のその時のニーズを見極め、当ホーム以外のサービス利用も視野に入れた上での対応に努めている。	○	今後もより広い分野で対応できるよう努めたい。
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	ご本人様をお茶の時間にお誘いし、ホームでの生活や他入居者様との交流を体験して頂いたりし、安心してサービスを利用出来る様にしている。	○	今後も一人ひとりに合わせ柔軟に対応して行きたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	センター方式を利用し、その人らしさを大切にしたい生活を実現するため、ご本人様からご意見を伺い、自立支援を行います。また、生活の中で人生の大先輩としての知恵をお借りすることを大切にしている。共にゆったり過ごす時間を取るよう努力している。	○	ゆったりと共に過ごさせて頂く為の工夫を追求していく。
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族様に面接時や電話連絡時に、ご本人様の現状を都度報告し、行事や病院受診など御協力頂ける様、積極的に声をかけさせて頂き、グループホームでの生活を共に支える関係作りを行っている。	○	行事などを通してご家族も交えた関わりを継続し、ご家族様と職員間のコミュニケーションの充実も図っていく。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるよう支援している。	入居者様のご希望を面会時などにご家族様に伝えている。また共に楽しい時間を過ごして頂く場として、お誕生会その他の行事等への参加を呼び掛けて、ご家族様も一緒に参加していただいている。	○	今後も更に工夫を重ね、より良い関係の構築に向け支援して行く。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族様等に相談し、出来る限り支援を心掛けています。	○	対話(ご本人様・ご家族様との)により情報を掘り起こし具体的支援内容を探り実行して行く。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士の交流を図ることが出来るように、座席の工夫や日常生活の中でレクリエーションや家事などを取り入れる等して対応しています。	○	幅広いレクリエーションの提供、フロア間交流、デイサービスとの交流、他ホームとの交流にも努めていきたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退居時に、必要であればいつでも連絡等下さる様伝えている。	○	今後も同様の対応に努めていきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人様との会話や表情・行動等から、またご家族様からのお話の中から、その思いやご意向の把握に努めている。	○	今後も同様の対応に努めていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	センター方式を活用し、今までの生活環境などの情報を元にさらによりよいケアを提供できるように努めている。	○	ユニット会議などで情報の再確認を職員間で行い、共有しケアにつなげていく。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	総合的な現状把握に対する取り組みやカンファレンスを定期的に、また必要に応じ随時行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ご本人様、ご家族様からご希望・ご意見を伺い、計画作成に向けてのケースカンファレンスに取り組んでいる。又、作成に当たり各メンバーや必要な関係者と話し合い、その意見やアイデアの反映の必要性の理解・周知に努めている。	○	ユニット会議などで話し合いの場を持ち、職員間でニーズの把握や情報の提供を行い、よりよい計画作成につなげて行く。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	月1回のケアカンファレンスを行い対応している。また新たに問題や必要な事例があった場合には少人数でのケアカンファレンスを行い、ご本人様やご家族様と相談しながら、現状に即した計画を作り対応している。	○	円滑・迅速に対応できる力量をチーム、或いはホームとしてさらに発揮して行きたい。
38 ○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	・毎月の様子は個別記録に記入し、申し送りや連絡ノートにより伝達事項等の情報共有に努めている。しかし、介護計画に沿った記録という点では十分とはいえない。 ・「気づきのボード」等を利用して、新たに気がついた点を介護計画に反映する取り組みをしている。	○	更に介護計画に沿った記録となる様に努力し改善する等の工夫をして行く。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	・1Fのデイサービスフロアを、催し物、家族会、地域推進会議、住民による福祉講演会、避難訓練などで利用している。 ・駐車場スペースにテーブル・椅子を置いて、日光浴、お茶会や焼き肉パーティなど活用し皆さんがくつろげるスペースを確保している。	○	今後も1Fのデイサービスフロアやスペースを活用して、良いケアを目指します。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	・行事の際には、ボランティアの支援をいただいている。 ・地域推進会議、3周年記念行事、避難訓練などで、地域の住民、民生委員にご協力いただいている。	○	今後も地域の皆さんのご協力をいただけるよう働きかける。
41 ○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	・ご本人様やご家族様の意向により、病院受診などのために他事業所のヘルパーや福祉車両等を利用し、支援している。	○	今後は地域のケアマネジャーとも話し合い他のサービスを利用する為の支援も考えていく。
42 ○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域運営推進会議等に出席していただいているが、まだ不十分な状況にある。	○	日頃から地域包括支援センターとの連携を密にし必要に応じ協働していける体制を作っていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご家族様がご本人様と受診に行かれるときは、ご本人様の状況を書いた専門医あての手紙を持参していただき、専門医から必要に応じてご指導をいただいている。</li> <li>・必要に応じて、職員がご本人様やご家族様と一緒に同行し、専門医からご本人様のケアについてアドバイスをいただいている。</li> <li>・訪問診療において、24時間365日健康管理、又必要に応じ服薬の確認、皮膚疾患の処置等主治医の指示で行っている。</li> </ul>		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主治医に状況を報告し、相談しながら必要な時は物忘れ外来受診などを行っている。</li> <li>・ご利用様の特変事を含め、24時間体制でかかりつけの医療機関と報告相談している。</li> </ul>		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護師が定期的巡回しており、医療連携体制をとり、相談、アドバイスをを行っている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	退院に向けて面会や電話などで病院関係者との情報収集や連携が取れている。また情報は連絡ノート等を使用し、共有できる体制をとり、退院前にはカンファレンスもしている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	ご本人様やご家族様の意向をふまえながら病院関係者と連携を取り行っている。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	入居時にご家族様に説明し、主治医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。	○	今後の変化に備え準備を早めに具体化していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>入居前にご本人様及びご家族様と十分な話し合いをし、ご家族様にもできる範囲内で協力をもらっている。また、グループホームの入居の際には出来る限り馴染みの物を持参して頂くよう声をかけさせて頂いている。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応を行わないように努めているが、十分とはいえない。</p>	○	<p>今後も、尊厳やプライバシーとは何か再度確認し、余裕をもってその人らしいケアをしていきたい。</p>
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>ご利用者様の希望の表出や自己決定の支援をしているが、引き続き改善していく。</p>	○	<p>職員が余裕を持って、ご利用者様の目線に合わせて、言葉やしぐさを十分に汲み取る努力が必要である。</p>
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>ご利用者様の希望やペースに合わせてながら、日常生活を好きなように過ごして頂くよう声をかけ取り組んでいる。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>訪問理容・美容を利用している方が殆どであるが、ご希望がある時には職員が近くの美容室へご案内したり、ご家族様がお連れすることもある。</p>	○	<p>今後ともご本人様の希望を優先してお連れする。</p>
<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>・ご利用者様のご希望を伺い、一緒に調理し、後片づけしている。 ・誕生日やその他行事の時には、季節の食べ物やご利用様のお好みの物を取り入れている。</p>	○	<p>今後も外食・出前を取り入れていく。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	ご自分の好みの物を購入し、居室で召し上がっているご本人様もいます。また、出来る限り希望を伺い、おやつを召し上げていただいている。	○	今後もご本人様の嗜好を把握して楽しく召し上げていただく工夫をしていく。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	記録を活用し、排泄パターンを把握のうえ、声掛けなどにより、誘導をしている。また安易に排泄用具を使用せず、トイレでの排泄が出来るように支援している。	○	今後もトイレ誘導の際にはプライバシーに配慮し、その方だけに伝わる様にする。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	・職員の都合で入浴日や回数をきめることがないように、入浴チェック表を活用し、ご利用者様が入浴を楽しめるように配慮している。また、菖蒲湯などで四季を感じていただいている。 ・ひとりで入浴を希望されるご利用者様には、夜間を除きいつでも入浴ができることをお伝えし、職員の見守りで入浴していただいている。	○	入浴の心地よさを実感して頂く事で本人からも希望が出る様にして行く。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	・室温・湿度・服薬時間・対応の仕方に配慮し、不眠時にはホットミルクの提供等もしている。 ・日中は出来る限り外気浴へお誘いしている。	○	統一したケアを行い入居者様の混乱を招かぬ様にして行く。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	・職員と一緒に、調理、盛りつけ、掃除、リネン交換、洗濯物畳みなどを行っている。 ・体操・塗り絵・貼り絵・生け花・歌・散歩・買い物・ドライブ等を生活に取り入れている。	○	今後も出かける機会等も増やしていく。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	・その方の状況に合わせて支援している。 ・買い物へ出かけた時には、ご自分の欲しい物を買っていただいている。	○	今後更に枠を拡げて行きたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	人員的に困難な時もあるが、ご利用者様の希望により、ホームのお庭でのんびり過ごしたり、近くの公園に散歩に出かけたり、買い物のために外出する機会を作っている。ご家族様のご協力をいたあだき、外出していただいている。	○	今後はこれまで以上に、ホームの庭やベランダで過ごす時間を作りたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	ご本人様に行きたい所を尋ねたり、日常の会話から推測して対応させていただいている(例えば、歌の好きな方にはコンサートへご案内)。また、四季に応じて行事の計画を立てて、外出の支援をしているが、十分に出来ているとはいえない。	○	今後もご希望を尋ねたり、生活の様子などから、行きたい所を探り対応する。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	・電話をすることを希望される方には自由に電話を利用させていただき、先方から電話がかかって来た場合には、取り次ぎの支援もしている。しかし、電話をしたいと言えなくなった方への支援は十分とはいえない。 ・手紙を書いている方がいるので、職員が宛名書きなどをお手伝いしている。	○	・電話をしたいと意思を伝えられない方には、いつでもご家族様と電話でお話ができるように、ご家族様にもご協力をお願いする。 ・手紙を書いている方には継続して支援をし、手紙の書けない方には絵手紙にするなどの工夫をして支援していく。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	ご家族様が気軽に訪問でき、心地よく過ごせるように、挨拶を励行するなど明るい対応に努めている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	内部外部の学習会に参加し、また職員同士がケアの振り返りを行い、身体拘束しないケアに取り組んでいる。職員は禁止の対象になる具体的な行為を理解している。	○	今後も身体拘束とは何かについて全員が理解を深める。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夜間は安全のために施錠しているが、それ以外はしていない。また、リビングの戸に開閉時になるチャイムを設置し、行動の自由と安全を確認している。	○	今後も職員の都合による施錠はしないケアを実践していく。
67	○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	所在確認はこまめにしており、ご利用者様の安全に配慮している。	○	職員全員がご利用者様一人ひとりの所在や安否を確認しあう。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	一人ひとりの状態に合わせ必要のある物は預らせて頂いて、チェックリスト等を作り保管・管理している。ご本人様をご希望されるときには、職員が同席して、使用していただいている。	○	引き続き危険防止のため、保管・管理に努めて行く。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	緊急時の内部研修を行い又対応のマニュアルもできている。ヒヤリハット及び事故報告書を職員全員で確認し事故防止に努めている。	○	今後も事故防止に向け勉強会を行い職員のレベルアップを図っていく。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	応急手当や初期対応の訓練については全体として行われていない。	○	全職員が熟知できるよう今後訓練を定期的に行えるようにする。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回、避難訓練を行っているが、そのうち1回は地域の皆さんに参加していただき、訓練を行っている。	○	今後も地域の皆さんの協力も得られるように働きかけていく。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	介護計画の説明時やご家族様が来訪された時に、その都度ご家族様に伝え話し合いを行っている。また毎月定期的にお手紙を送り、報告している。	○	今後とも随時及び定期的なカンファレンスを行い、職員が共通認識を持ち、ご家族様への報告・連絡・相談し、そのご協力を得ながら、リスクを最小限にするよう努める。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異常の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	一人ひとりの状態を把握できるよう、毎日バイタル測定を行っている。また状態の変化や異常を早期に発見できるよう状況を観察し、記録に残すなどして、情報を共有し対応できるようにしている。体調の変化があったときには、主治医に連絡して対応している。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	往診・受診記録に薬剤情報や往診時の状況を記録し、主治医の指示通りに服薬できるよう支援し、様子観察を行っている。	○	薬の効果や、副作用について熟知し、個人にあった対応を心掛けていく。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	予防の為、起床後の冷たい牛乳などを提供したり、副食に野菜を多く取り入れている。又、テレビ体操を行ったり、偏食をしないように働きかけをしている。1日の水分量も1000ml～1500mlを目安に提供するように努めている。定期的な排便が見られない等の症状がある場合には主治医に相談し、必要に応じて薬の調整なども行っています。	○	食事・運動等での予防を更に充実して行く。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	・口腔ケアは食後に行っているが、昼食時は一部のご利用者を除き十分ではない。 ・ご自身では口腔ケアが不十分な場合には一部介助で実施している。	○	・昼食後の口腔ケアを十分に行えるよう検討する。 ・歯科の往診診療による口腔ケアにも取り組む。
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	・1日の食事量や水分量をチェックし、状況に変化がないかの確認を行っている。また食事に関しては業者に委託し、カロリー計算を行っており、3食で1500kcal程度である。また丼物の具を別にしたりする等、個人の好みに応じた食事提供を行っている。 ・ご利用者のお気に入りの飲み物や食べ物を形態に合わせて提供し、不足分を補っている。	○	摂取量不足のときには主治医の指示を仰ぎ栄養補助食品を提供していく。
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防のため来訪者にはうがいと手洗いの励行をお願いしている。また職員に関しても出勤・外出後は必ず手洗いとうがいをしている。またモーリス等の消毒薬を使用し、日常的に消毒を行い予防に取り組んでいる。汚物などの介助の際には使い捨ての手袋を使用している。	○	感染症に対する予防や対応の取り決めを更に具体化していく。職員の就業前、来訪者の手洗い・含嗽・マスクを更に徹底していく。
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	・調理用具などの消毒は日常的に出来ている。 ・食材は毎日業者から配送され新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。 ・ご利用者様に食事を提供する前に、職員間で味見をし、安全管理に努めている。 ・炎天下の日など食中毒が発生しやすい日はより一層、食材に火を通したり、生物を提供しないなど注意し対応している。	○	継続していく。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	庭にベンチを置いたり、玄関まわりに花を植えたり、畑で野菜を作ったりし、親しみやすい工夫はされているが不十分である。	○	今後も季節感のある花や野菜をご利用者様と一緒に作ったり、飾ったりしてもっと親しみやすい環境作りを工夫していく。
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節感にあった切り絵などをご利用者様と作成したり、既製品のタペストリー、絵や花を飾り、また歌や音楽が好きな方にはゆっくり音楽などを楽しんでいただくスペースを確保しているが、十分ではない。	○	今後も季節感のある物をご利用者様と一緒に作って、飾ったりしていくが、もう少し工夫していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	廊下に設置したソファやベンチ等で、一緒に或いは一人で思い思いに過ごされている。	○	今後も工夫を続けていく。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	・ご家族様がテレビ、CDプレイヤーなどを居室に設置し、時には他のご利用者様が居室を訪問し、好きなときに居室で楽しんでいる方もいる。 ・ご本人様やご家族様と相談し、以前から使用していたものを持ってきて頂き、例えば仏壇などを持ってきていただき、できるだけ環境を変えないように配慮している。	○	今後もご本人様やご家族様と相談しながら工夫していく。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	・温度・湿度はご利用者の状況に応じ調節出来ているが換気は不十分である。 ・冬季には加湿するために加湿器や濡れタオルなどを利用している。	○	換気を十分に行い、気になる臭い等が出ない様にして行く。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	・建物内では、安全のために、手摺りを使用して頂き、できるだけ自立した生活ができるよう支援している。	○	今後も安全かつ自立した生活が送れる様に工夫していく。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	・職員は、ご本人様がスムーズに家事ができるよう、段取りを整えた上で声かけをし、混乱や失敗がないようにすることに心がけ、一緒に家事を行って頂いている。 ・トイレや部屋に目印を付け、分かりやすくする工夫をしている。	○	・今後も混乱や失敗がないようにすることに心がけ、一人ひとりの身体機能に合わせ出来る事を見つけて支援して行く。
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	・庭にベンチとテーブルを設置したので、日光浴やお茶会をしている。 ・畑や花壇があり利用者が花の手入れをしたり、観賞したり楽しめるようにしている。	○	安全に活動できるよう配慮していく。又、各ユニットのベランダも活用していきたい。

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ○ ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある ①毎日ある ○ ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ①ほぼ全ての利用者 ○ ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている ①ほぼ全ての利用者 ○ ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ○
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている ①ほぼ全ての利用者 ○ ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている ①ほぼ全ての利用者 ○ ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく ①ほぼ全ての家族 ○ ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない ○

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ○ ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ○ ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ○ ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ○ ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

・ご利用者様とご家族様と一緒に参加出来るような行事を年間通して行い、気軽に参加出来るようにしている(さくらんぼ狩り、食事作り及びパーティの開催等)。